

宝塚市政記者クラブ各位

広島への原爆投下直後における調査団関係資料を発見 広島平和記念資料館へ寄贈を打診

宝塚市立教育総合センターにおいて、広島への原子爆弾投下直後における被害調査に関する貴重な資料を多数発見しました。

本市としては、未知の惨禍に立ち向かった先人たちの足跡を風化させることなく次世代へつなぎ、今後の平和教育や未来の命の尊厳を守るために役立てていただこうと、広島平和記念資料館への寄贈を打診しました。同館への事前相談(データによる共有)においては、「当時の調査や、物理・医学の連携の様子を示す重要な資料である可能性が高い」との前向きな評価をいただいております。今後は現物による調査・確認を経て、正式な寄贈に向け具体的に手続きを進めます。

1 寄贈予定資料の具体的内容

昭和 20(1945)年から昭和 22(1947)年にかけての原爆被害調査に関する、以下の 4 分類からなる貴重な記録です。

- (1) 公的調査報告書:技術院による極秘の「新型爆弾災害調査研究報告」や、「呉病院第 20 号 原子爆弾医学的調査資料の件」など。物理学者へ医学データが共有されていた事実を示唆する文書が残されています
 - (2) 個人の研究メモ・ノート:浅田常三郎氏が現地調査等で使用した、ウラン 235 の核分裂反応式や残留放射線量の計測に関する手書きの計算・分析メモなど
 - (3) 行政・海外からの書簡:招聘状や、米国調査団からの英文の礼状など
 - (4) その他の現物資料:当時の出版物や、被爆の痕跡を示す「板塀」の記録など
- ※上記資料の学術的な詳細や真偽の最終確定については、今後の寄贈手続きの中で進められる予定です。

2 寄贈先(予定)

広島平和記念資料館

3 寄贈先からのコメント

「貴重な資料である可能性が高く、ぜひ前向きに寄贈を受け入れたい。」

4 物理学者 浅田常三郎氏について

大阪帝国大学(現・大阪大学)理学部物理学科教授。応用物理学・放射線物理学を専門とし、原爆投下直後、海軍の要請を受けて自作の測定器を携え、現地調査を行った調査団の一員です。

学問を社会や産業に応用することを重んじ、「町人学者」とも呼ばれた先進的な研究者であり、ソニーの創業者である盛田昭夫氏をはじめ、戦後日本の復興・産業界を支えた数多くの優れた技

次頁に続く

術者や人材を輩出し、産学連携に多大な功績を残されました。

5 保存の経緯について

教育総合センター内で発見しましたが、文書の寄贈や移動に関わる当時の公的記録が現存しておらず、当センターに保管されるに至った確実な経緯については不明です。しかしながら本市としては、本資料が持つ極めて高い歴史的意義を最優先に考え、最もふさわしい場所への寄贈を進めることとしました。

6 報道機関からの問い合わせ先

教育総合センター(教育研究課) TEL:0797-84-0946(直通) 次長:中井、担当:藤井

